



梓会会報

2014年(平成26年)2月発行

第6号

発行/梓会
編集/梓会会報編集委員会
〒788-8686
高知県宿毛市桜町2番1号 宿毛市企画課内
☎0880-63-1118 ☎0880-63-0174
<http://www.gallery.ne.jp/okutan/index.htm>

平成二十五年三月三日
名誉市民の坂本嘉廣様と喜杏夫人を囲んで
沖本年男市長と中平富宏市議会議長(当時)



坂本家四代

公益財団法人坂本報効会 理事長 坂本 嘉廣

「お父さんの故郷は「すくも」といって、「やどげ」と書くんだよ。」と、懐かしそうな表情で話してくれましたのは、私が小学校四年生位の頃だったと思います。丁度東京のお盆の頃で迎え火を焚きながら、きつと先祖のことを思い出しながら、懐かしさのあまり、出た言葉だったのでしよう。よく松田川に飛び込んで泳いだものだ、とも言っておりまして。

父は、なんとしても宿毛に行きたかったようですが、私が小学校二年生の頃に失明してしまい、今とは違って旅行することは大変な時代でした。それでも、なんとしても行きたいと思ったようで、私が中学生の頃には、「宿毛高校の校庭にヘリコプターは降りられるかな」としきりに聞いておりました。おそらく宿毛の自然の中に身をおいて、空気を吸って懐かしい昔に触れたかったのでしょう。しかしそれはかなわないまま、私が高校二年の冬に、父は亡くなりました。

私が高校三年の秋だったでしょうか。明治百年のお祝いがあり、宿毛市からの招待で、父があんなに行きたがっていた宿毛に、家族全員で行くことになりました。祖父・嘉治馬が宿毛でどんな思いでいたのか、父・守正がどんな思いを持っていたのかを、初めて知ることのできる機会となりました。

宿毛には坂本図書館という、嘉治馬がつくった図書館がありました。嘉治馬が出版という仕事をするうちに、「自分の故郷には図書館がない。知識を広めるには学生には図書館が必要だ」と気付き、当時は大変な事業だったと思いますが、成し遂げたのだそうです。図書館を建てるというのは、それだけでどれほど宿毛のことを思っていたかが推察できます。そして、恩人小野梓先生のお眠りになる東福院の復興の寄進、松田川の橋の建立、岩村家のお屋敷を引き受けた後に市に寄贈、天満宮の一建立、父守正の県立宿毛高校設立のための援助等、また嘉治馬の生誕の地を、坂ノ下の皆様が管理をしてくださっていることなどを見て知るにつけ、初めて嘉治馬や守正の宿毛に対する心が解った気がいたしました。

平成十四年に、早稲田大学十四代総長・奥島孝康先生が、宿毛でJ.C主催の小野梓記念講演をされたそうです。この奥島総長の講演を機会に、当時教育長でした橋本邦彦さんの発案で、子供の教育のため、作文コンクールを行うことになりました。早稲田大学から表彰してもらうことで、早稲田大学と宿毛をもっと近いものにしよという目的で「梓会」が発足し、初代会長に濱田俊久さんが就任されました。

作文コンクールの初回は、小野梓について行われたそうです。二回目は坂本嘉治馬についてであり、その表彰式に梓会から招待を受け、宿毛に何十年振りに行く機会をいただきました。さらに、当時宿毛市に移管していた、財団法人坂本報効会の理事長に私が就任することにより、坂本と宿毛の距離が近く近くなりました。この十年間毎年四回〜五回は帰りますが、行くたびに、嘉治馬や父の時代より便利になったとはいえず、時間がかかり、遠さを感じます。けれども、行きすがら、父が私に話したことを思い出します。私が宿毛に行く時は、いつも嘉治馬も守正も一緒だと思っています。

子供の頃から、春秋の彼岸の恩人の墓参りを父と共にし、現在も続けておりますが、父からは嘉治馬や自分がどんな恩返しをしたかは聞いておりません。宿毛高校の入口に頌徳碑が建立されることになったとき、当時内閣総理大臣・吉田茂先生が書いてくれるそうだと聞いておりましたが、詳しくは知りませんでした。現在、建立されているものは、吉田茂筆となっております。

昨年、宿毛市役所から名誉市民の称号を授与する旨のお知らせをいただきました。身に余る光栄なことですが、ここ十数年の宿毛との付き合いだけでしたら、辞退させていただいたと思います。この名誉市民の称号は、嘉治馬、守正、私の兄起一、そして私が坂本家を代表していただいたと思っております。何代にも繋がって御縁をいただいております市民の皆様、宿毛の大自然の樹木、花、実、川や海に先祖の心が通じたのかと思います。祖父や父が郷土を思う気持ちというものは、ただ懐かしいというものではなくて、その時々の状態が良きにつけ悪しきにつけ、どんな状態であっても、純粹に真剣に宿毛のことを考えていたのだと思えてなりません。

宿毛という風土は、多くの賢人を生んできました。現在御縁をいただいで、毎年楽しみに梓立祭に出席させていたのですが、梓立祭のおかげで、早稲田大学の学生諸君が宿毛と富山房インターナショナルを訪ねてくれて、宿毛の小中高の生徒さんに接してくれるようになりました。その積み重ねがどんなことに発展するか楽しみです。きつと小野梓先生の精神が、いきいきと甦る日が来ることでしょう。梓会二代目現会長澤田雄一さんをはじめ、梓会の皆様と宿毛市長を中心に、私も和の精神を持って、人々のために何ができるかを、今後も考えていきたいと思っております。

梓会会長に就任して



梓会会長 澤田 雄一

らうことになりました。

私がいつも思う事なのですが、この高知県の西端に位置する宿毛市に毎年VIP級の方々にお越し頂き、「梓立祭」を盛大に開催し、交流をさせて頂くというのには、この町の地理、規模からして奇跡に近く、全国を見渡してもこの様な会はないのでは無いかと感じております。それも、「小野梓」、「竹内明太郎」、「坂本 嘉治馬」、「大江 卓」、「後藤 環爾」、「小野 義真」、「伊賀 陽太郎」、「岩村 通俊」、「林 有造」、「岩村 高俊」といった先人の素晴らしい業績があったからこそだと思っております。

そして、昨年は梓会にとって大変嬉しい年となりました。申し上げるまでもなく、梓会とは郷土出身の偉人「小野 梓」から名をお借りして付けられた名称です。その小野梓が設立に尽力された早稲田大学（当時は東京専門学校）に7年前の「第5回梓立祭」におきまして、小学生の部で小野梓について最優秀作文を書かれた河原愛さんが早稲田大学文学部に入学いたしました。そのことを聞いた瞬間、皆でまるで身内の様な気分になり興奮し喜び合ったことでした。

また5年前より、株式会社小松製作所 大阪工場をはじめ関連企業、協力企業にも宿毛高等学校、宿毛工業高等学校より毎年のように採用していただいております。宿毛出身の「世界のコマツマン」が次々に誕生しております。

宿毛で生まれ、宿毛で育った子供達が、「坂本嘉治馬」の設立した図書館で本を読み、学び、そして宿毛出身の偉人が造った学校、企業に入る、まさに時代（とき）を超えた理想のサイクルではないでしょうか。

梓会として、この宿毛の偉人達が導いてくれた素晴らしい奇跡の絆を決して断つことなく維持、発展させていきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご協力ご指導を宜しくお願い申し上げます。

梓会会長として十年

梓会直前会長 濱田 俊久



2001年の青年会議所時代に宿毛高校の関係者の方より宿毛高校をもっと良くしたいのだが何か方法はなだろうかと相談を受けました。

そのときの話の中で宿毛の優秀な子供たちが中学や高校から市外にでていることが話題になりました。やはり魅力ある高校にするには有名大学の推薦枠であるとかそういったものがないと市内には残らないのではないかと結論にいたりました。

おりしも早稲田大学が小野梓生誕125周年記念事業を行っておりまして早稲田出身の山本有二代議員にお願いをして早稲田大学で第14代 奥島孝康総長にお会いし、記念講演の依頼をしたところ快諾していただきました。

宿毛に帰り青年会議所主催で実行委員会を立ち上げることにになり、言いだしつぺの私が実行委員長になることになりました。この記念講演で小野梓の名前を初めて聞いた人も多かったのではないかと思います。

その後いろいろな経緯で梓会を立ち上げることになるわけですが、設立に關しては浦田文男副会長がもつとも熱心でありました。設立当初の梓会を物心両面で支えていただいたのは故西尾一雄元県会議長でありいろいろな方を梓会に勧誘していただきました。

早稲田大学につきましても小野梓生誕125周年記念事業の一環として現小野梓記念公園の土地を購入して宿毛市に寄付していただくなど、宿毛と早稲田の距離が近くなつてまいりました。

ここで忘れてはならないのは坂本嘉治馬の子孫であられる坂本嘉廣さんのことです。東京でお会いしたときに坂本家の保有している小野梓の英文原稿を早稲田大学に寄贈したので奥島先生にお伝えくださいということでしたので、その日のうちに早稲田大学で奥島先生にお会いしてそのことをお伝えしました。

小野梓の自筆英文書は大変貴重な資料であり、大いに喜ばれました。

この一件により梓会は早稲田大学での一定の評価を得たと言えるでしょう。後にこの文書はレプリカも作られ、宿毛市に寄贈されております。

株式会社小松製作所(コマツ)のことにもふれておきましょう。奥島先生とコマツの萩原敏孝元会長が早稲田大学在学時に仲の良い友人あつたことから、萩原さんに竹内明太郎の顕彰を梓会で行うので記念講演をお願いしました。

このときの梓立祭がコマツの方々との初めての出会いでした。いろいろなことがあり今ではコマツ大阪工場に毎年のように宿毛高校と毛工業高校の生徒を採用していただいております。

またコマツの関連企業の方々も何度も宿毛にお越しいただき宿毛工業高の生徒を採用していただいております。

梓会会長としていろいろなことにチャレンジし、日本中の関連施設や子孫や関係者の方々とお会いしましたが、今ではすべては必然であり何かに導かれた十年間であつたと確信しております。

多くの関係者とお会いして感じましたのは、こういう団体ができるのを待っていたというか宿毛の人間に会いたかつたのではないかという印象を持っております。

十年間未熟な私を支えてくれた執行部と会員の皆様また全ての関係者の方々に感謝申し上げます。

これからは澤田雄一会長を盛り立てていきたいと思しますので、今後ともよろしくお願いいたします。本当にありがとうございます。

株式会社小松製作所大阪工場 採用状況

●宿毛工業高校 (合計5名)

- ・ 佐田 汐登 (平成26年4月入社予定)
- ・ 川田 陽祐 (平成25年4月入社)
- ・ 尾崎 健人 (平成24年4月入社)
- ・ 松岡 玲 (平成23年4月入社)
- ・ 森田 真伍 (平成22年4月入社)

●宿毛高等学校 (合計5名)

- ・ 岡崎 功祐 (平成26年4月入社予定)
- ・ 兼松 裕哉 (平成25年4月入社)
- ・ 浜本 一秀 (平成25年4月入社)
- ・ 川田 裕貴 (平成24年4月入社)
- ・ 釣井 稜太 (平成22年4月入社)



事業報告

平成二十四年

九月

- ・二十四年度総会
- ・第一号議案 二十三年度決算・事業報告
- ・第二号議案 二十四年度予算案・事業計画案
- ・第三号議案 役員改選
- ※新会長 澤田雄一 選任
- ※直前会長 濱田俊久 就任

十月

- ・ふるさと清掃運動会 in すくも 実施
- ・濱田直前会長慰労会

十一月

- ・コマツ大阪工場訪問
- ・タグラグビー講習会
- ・宿毛の子供達の未来を考える会
- (公財) 坂本報効会主催
- ※宿毛市・宿毛市教育委員会・坂本図書館・梓会他 参加

平成二十五年

三月

- ・梓公園・小野家竹内家墓所清掃
- ※梓会・宿毛市・宿毛ミニバスケットボールクラブ参加

- ・第十一回梓立祭式典
- 記念講演 「竹内明太郎から我々はなにを学ぶのか」
- 講師 竹内明 (TBS報道局ニュース部次長・竹内明太郎曾孫)

- ・坂本嘉廣氏が宿毛市より名誉市民の称号を贈られた
- ・大橋徹二氏(現コマツ社長) 来宿
- ・宿毛花へんろマラソン参加のため
- ・コマツ大阪陸上部・高橋専務執行役員他 来宿

四月

- ・東京宿毛会参加
- ・表敬訪問(早稲田大学・コマツ本社・富山房他)

六月

- ・早稲田大学すくすく宿毛プロジェクト始動
- ※宿毛市の高校生たちと宿毛の水産資源のPRについて半年間活動

七月

- ・岩村ゆりえ氏(岩村高俊の子孫) 来宿

八月

- ・宿毛花の会(小野梓記念公園を花いっぱいにする市民ボランティア) 結成

十月

- ・ふるさと清掃運動会 in すくも 実施
- ・二十五年度総会
- ・第一号議案 二十四年度決算・事業報告
- ・第二号議案 二十五年度予算案・事業計画案

十一月

- ・早稲田大学稲門祭イベントに宿毛高校生徒参加
- ・コマツ大阪工場訪問



前列左から二番目奥島孝康氏、四番目坂本嘉廣氏、五番目小野雄二氏、前列右から三番目萩原敏孝氏、後列左から四番目竹内明氏

平成二十五年三月三日 第十一回梓立祭
小野梓の菩提寺清宝寺 小野梓君碑前にて



竹内明氏による記念講演 「竹内明太郎から我々はなにを学ぶのか」

早稲田大学すくすく宿毛プロジェクト



わたしたちすくすく宿毛プロジェクトは宿毛応援団！

設立経緯

学部教授であった故・小田泰市先生とその教え子である早大生が表敬訪問したのが始まりであった。翌年以降、学生の合宿が始まるも活動は数年で自然消滅してしまった。20年以上の月日が流れ、2002年に梓会が発足した。大学との交流が7年目にさしかかった頃、宿毛を盛り上げるために自由な発想を持ち活動できる学生を招いたらどうかという話が持ち上がった。その声に応えたのが、平山郁夫記念ボランティアセンター（通称 WAVOC、ワボック）の職員と公認サークルで活動していた学生であった。

これまでの活動



宿毛中学校 養殖真鯛を売り出すポスター作成



3世代交流 クイズ大会



私たちすくすく宿毛プロジェクトは、年に2回宿毛を訪れ、宿毛のみなさまと一緒に活動させていただいております。これまでには、宿毛の中高生と宿毛をPRする活動をしたり、世代間交流の企画を行ったりしました。また、東京でも、宿毛の食のPRや新しいメニューの考案などと活動しております。今後も宿毛の魅力・課題・将来のことを宿毛のみなさまと一緒に考え、提案していきたいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

早稲田大学すくすく宿毛プロジェクト

第十二回梓立祭 小学生の部 最優秀作文

梓の志を生かして

宿毛市立松田川小学校 六年 有田 昂平

ぼくは、五年生の時に、宿毛の偉人小野梓を知りました。六年生になり、改めて小野梓について考える時間がありました。梓は幼い頃は勉強が嫌いでしたが、戊辰の役で戦を経験し、一時勉学の志をおさえ、その後岩村通俊の元で生活をしていました。ある日通俊から

「貴様は節吉の子だが、今の様子ではとても親爺に及ばんぞ。」と弱で梓は頭を打たれます。それがきっかけとなり、梓は、「今に見よ。」

と心に誓い、後に通俊を、生涯の恩人と呼ぶようになります。これが小野梓を偉人にした原点でした。さらに、梓は、父親の教えをしつかりと引き継いだこともすばらしいと思います。

「自分の志を達成する機会が来たなら全力をあげてこれを行えよ。」という言葉が深く胸に刻まれました。この言葉は、ぼくにもびつたり当てはまった気がしたからです。

そこから梓は新生日本を作るために行動します。十八才で自由を求め、士族から平民になったり、大隈重信らと立憲改進黨を結成し政治に参加したり、日本らしい大学を作るために東京専門学校を設立し、同時に学校図書館も置き、全国に本の大切さを広めていくなど、先頭に立って行動していきましました。ぼくはそれら全てがすごいと思ったけれど、ぼく以上に、梓の周りにはいつも支えてくれる人達がいたということの方に感動しました。ぼくも、梓を知れば知るほど好きになっていきました。

しかし、一つだけ残念なことがあります。それは、社会の教科書に出てこないことです。こんなに日本を思い、行動してきた人物を、ぜひ教科書に載せて、日本中の人に知ってもらいたいです。

梓のことを勉強していく内に（もし今の日本に梓がいたら、どんな素敵な国になっていたのだろう）と思うことができました。他人の為にここまで努

力してくれる梓のような強い人が今の日本に必要だと思います。毎年二月に開催する真丁の駅伝大会も、小野梓記念公園をスタートとゴールにしています。今までは感じたこともなかったけれど、梓の思いが詰まった場所で走れることは、とても栄誉なことだと思おうようになり、今年で走るのは最後なので、その思いと共にぼく達の頑張りを梓に届けたいと思います。

小野梓は新生日本の種まきをした宿毛が誇る偉人だと思っています。これから先、ぼくも梓のように、志を高く持ち、周りの人達を魅了し、友達や支えてくれる人達に感謝しながら行動できる、強い意志を持った人間になりたいと思います。

第十二回梓立祭 作文・絵画コンクール受賞者



小学校 最優秀賞
樋野 萌
(咸陽小学校)



中学校 最優秀賞
高島 麗佳
(宿毛中学校)

● 作文の部

《小学生の部》

最優秀賞 有田 昂平 (松田川小学校)
優秀賞 篠原 菜那 (橋上小学校)
奨励賞 嘉新 奈央 (大島小学校)

《中学生の部》

最優秀賞 所谷 彩由 (篠山中学校)
優秀賞 沖 才樺 (篠山中学校)
奨励賞 中村 有里 (宿毛中学校)

● 絵画の部

《小学生の部》

最優秀賞 樋野 萌 (咸陽小学校)
優秀賞 山陸 梅花 (松田川小学校)
奨励賞 山口 優莉 (大島小学校)

《中学生の部》

最優秀賞 高島 麗佳 (宿毛中学校)
優秀賞 菊地 那美 (片島中学校)
奨励賞 川村 洪人 (宿毛中学校)

第十一回梓立祭 中学生の部 最優秀作文

竹内明太郎

篠山中学校 一年 所谷 彩由

工業を発展させるためにできること。いろいろな方法はあると思いますが、竹内明太郎さんがしたことは学校を作ったことです。それまで農業や林業が中心だった高知に工業を発展させるために工業高校を作り学生を育てました。

この学校の特徴として「ほかの学校のまねをしない」というものがあります。例えば、普通の学校では当たり前にある上下関係。当時の日本では普通だった年齢などによる上下関係をなくし、一人一人を人間として大切にしたいそうです。生徒も先生も家族のような関係でした。私の学校も全校生徒十名です。私たちは全員で仲良く生活しています。お互いに何でも話せるし、協力しながら行事なども創っています。「先輩の言うことを聞かないといけない」、「後輩だからなんでもしないといけない」というよりも「みんなできにかをする」ことが自然にできていると思います。毎日お互いに大事にしていくし、大事にされていると感じています。

また、竹内明太郎さんのすごいところは学校を作った立派な人が、自分自身を偉い人として扱われるのを嫌い、生徒や先生たちを家族のように考えていたところだと思います。一番偉いとされている学校を作った人が、みんなを大切に扱ってくれる学校なら安心して通えるし学べます。この工業高校が高知の名物になったのも分かるような気がします。

この学校を見たいと思って多くの人が訪れているのですが、なんとこの工業高校はこの学校で学びたい人だけではなく、一般の会社の人たちも訪れています。当時の最新機器、設計相談や技術を教えてほしいと頼まれることが多くありました。このようにたくさんの方が高知を訪れると高知が元気になります。高知が元気になると高知の人々も元気になります。人々が元気になると前向きに学ぶ人たちも増えてきます。そうすると高知工業学校に入学して工業を学ぶ人も増えてきます。学校を作ることによって竹内明太郎は地域に恩返ししたのです。

最終的な竹内明太郎さんの目標は世界でした。「世界に負けない製品を作る」ことでより地域を発展させることに成功しました。今現在、「コマツ」と

いう会社が日本にはあります。そこで作られている農用トラクターやブルドーザーなどの製品は、世界中で使われています。竹内明太郎さんの考えがずばり当たり、工業技術によって反映しています。

学校や会社を作り、日本や地域に貢献した明太郎さん。人を信じ、人に頼られ、人を愛した明太郎さん。私も明太郎さんのように貢献できる人間になりたいと思います。

第五回梓立祭作文コンクール最優秀受賞者のスピーチ

早稲田大学入学に寄せて

早稲田大学 一年 河原 愛

私は二年前に統合でなくなってしまった栄喜小学校出身です。作文を書くにあたって、当時の先生方は、小野梓先生について知らなかった私達にプリントを用意してくれたり、本を薦めてくれるなど、様々な角度から熱心に指導してくださいました。そして、そのおかげで私も梓立祭で賞をいただき、それができました。作文の中で「早稲田大学に行きたい」ということを公言するのは気恥ずかしいという思いもあつたのですが、背中を押していた、だいて素直な気持ちを書くことができたので、今となっては本当によかったと思っています。実際に梓立祭で多くの人に向かって自分の気持ちを語ることも、大変勇気があることでしたが、それ以来その言葉を實現して早稲田大学に行きたいという気持ちにさせてくれる貴重な体験になりました。

私はその後、小筑紫中学校を経て、高校からは宿毛を離れ、高知学芸高校に進学しました。中高一貫の進学校に高校から入学した私にとって、入学当初は努力しても結果が報われず自信をなくしてしまつたこともありましたが、しかし、努力してもすべてが報われることはないけれど、今やるべきことを精一杯やることで、道が開ける可能性が少しでも高まるなら、その可能性を信じて頑張ってみようと思うようになりました。

高校三年生になり、模試の志願校欄に早稲田大学と書いていたのが先生の目にとまり、文学部をすすめてもらったことで、更に早稲田大学に行きたいという思いが強くなりました。小学校の頃、思い描いた夢は少しずつ変わろうとしています。この春からは念願の早稲田大学で自分の目標に向かって頑張りたいと思います。

ふるさと清掃運動会

ふるさと清掃運動会とは、「富士山大好き！百人の会」が「富士山から日本を変える」を合言葉に、ふるさとの山、川、海、湖沼、街など身近なところから環境アクションを起こそう！と2007年、全国の市民、学生、企業で働く人たちに呼びかけて、清掃を行ったのが始まりです。毎年10月を集中月間に、ふるさとの清掃活動を行っています。

実行委員長は王貞治氏。呼びかけ人代表には、早稲田大学の名誉顧問の奥島孝康氏やアルピニストの野口健氏など、著名人が名前を連ねており、実行委員会は市民団体、企業、学生ボランティアなどで構成されています。

2007年の第1回から第6回までに、のべ17万人以上が47都道府県1360か所で環境アクションを起こしました。

梓会もこの運動に参加し、小野梓記念公園、小野梓墓所、竹内家墓所などの関係各所で、「ふるさと清掃運動会inすくも」を行っています。最近では、宿毛ミニバスケットボールクラブの子供達にも参加して頂いております。

一人ひとりができることは小さくても、たくさんの方が参加すれば大きな力となります。私たちのふるさとの山や川、海、町の環境を守り、子どもたちに美しい日本を残していくため、ふるさと清掃運動会に参加しましょう。



小野梓記念公園での「ふるさと清掃運動会inすくも」の様子

富山房インターナショナルより出版された絵本の紹介



ひさまつ まゆこさんと「やさしいかいじゅう」

富山房インターナショナルから絵本が出版されました。この絵本は、梓会会員であり、土佐清水市在住の二十七歳のひさまつまゆこさんの作品です。絵本のタイトルは、「やさしいかいじゅう」。

公益財団法人坂本報効会のご協力によって出版することができました。

ターにて出版記念原画展が行われ、平成26年2月には、高知県出版文化賞を受賞。今、話題の作品となっています。

小さな子供から大人まで楽しめるようにと、全てひらがなでのストーリーとなっています。書店で見かけたら、是非、手に取ってみてください。



【ひさまつ まゆこ】

本名、久松麻由子。1987年生まれ。

高知県土佐清水市出身。

倉敷芸術科学大学芸術学部美術学科卒業。

現在、土佐清水市でどうぶつをモチーフとした絵画や絵本などを、のんびりコツコツと制作・活動中。

<http://mayuko-hisamatsu.digi2.jp/index.html>

<会員募集>

梓会の趣旨に賛同される方の募集を行っています。
 申込先/宿毛市企画課内 ☎0880-63-1118
<http://www.gallery.ne.jp/okutan/index.htm>